



THE JAPANESE SCHOOL in LONDON

ロンドン日本人学校だより 5

学校教育目標

自ら学び、心豊かにたくましく国際
社会を生きぬく児童生徒の育成
合い言葉：自立・貢献

2021(令和3)年
月4日発行 ロンドン日本人学校
令和3年度 第2号

今年度 新たな“学び”のかたち

校長 石山 秀樹

今年度から、文部科学省改訂による学習指導要領が完全実施となり、教科書も昨年度の小学部に続き中学部でも新たなものとなりました。新学習指導要領で謳われている、「主体的・対話的で深い学び」「思考力・判断力・表現力(の重視)」といった理念は、子供達が活躍する、十数年後の見通しのきかない不透明な未来を担っていけるよう考えられたものです。

本校では、この新学習指導要領で進められる、外国語教育・道徳教育・言語能力の育成等については既に先行して取り組んできたところ。「プログラミング的思考(プログラミングを行う際に必要となるような論理的思考)」を養うプログラミング教育は、専用のアプリの利用のほか、いくつかの教科領域で取り組む見込みです。これらの取組と並行し、本校の各教科の授業における評価・評定の在り方についても検討と改善を行いました。「何を、どのように評価するか」は、既に保護者の皆様にお知らせし、また、児童生徒にも発達段階に応じて伝えております。

今年度の本校ではさらに、ICTを活用した効果的な学習環境の実現に向け、「学習用 iPad(以下、「端末」)」を導入します。文部科学省の「GIGAスクール構想」に則ったこの取組では、日本国からおおよそ半額の助成を得てタブレット端末を導入し、小学部4学年以上の全ての児童生徒に端末を配付、授業をはじめとした学校での教育活動の他、家庭学習等での活用を進めます。本校では一昨年度に教室への大型TVの導入、昨年度に校内WiFiの整備を進め、この取組がICT活用の第3段階目となります。

これまでの私達の学習は、紙と鉛筆やペンを使って文字や文章、絵などで表現し、教科書その他の紙の資料を使って行われてきました。手を使って紙と鉛筆等で直接表現することは、ヒトの知能の発達と密接な関わりがありますので、学校の教育活動では決して蔑ろにはできません。(このこと

は、今回の端末配付が小3以下に行われないこと、予算措置と並んで大きな理由でもあります。小3以下の学年では、学校に配備されている端末を使った学習活動が行われていきます。)

しかし、現代社会を生きる私たち大人の生活が、既にインターネットとスマートフォン・PC無しでは成り立たないのと同様に、教育の場でも情報の入手・検索・表現活動等、「学びと知の拡張」の手段として、ICT機器の導入は必須なものとなっています。いわば、紙と鉛筆やペン、教科書や資料集と同様の「学習道具」として、今回配付の端末を使い込んでいくことが求められているのです。

従って、その利用は特定の教科や内容に限られることなく、児童生徒が経験する学びの場全てで活用される可能性があります。ゆくゆくは、現在の授業の中で子供達が教師からいちいち「ここで鉛筆を使いましょう」と指示されないのと同様に、子供達自身がその必要性を感じたときに自ら判断して端末を利用し、学びを進めることになるでしょう。

端末には様々な機能があり、そのときの授業とは関係ないことも勿論できます。目の前の授業とは関係ないことに端末を使っていくのか、それとも授業に関連した学びに端末を使っていくのか、その判断も中学生では、できるようになってほしいと考えます。道具ですから、火や刃物と同様に、人にとって極めて有用であると同時に、使い方を誤れば人を傷つけるものともなります。児童生徒達は、これから端末を使いこなしていく中で、そういったICTの負の面についても学んでいかなければなりません。

この取組は、児童生徒にとっても教師達にとっても、初めてのものとなります。ロンドン日本人学校では、この1年間をかけて、教育としての有効な活用法の探索や活用実績の蓄積を進め、「ICTを活用した学び」が当たり前となるような明日の学校教育を目指してまいります。